

「助産師教育における将来ビジョン2021」を充足する教育

日本助産評価機構



天使大学大学院助産研究科助産専攻
専門職大学院適格認定
2024.4.1～2029.3.31

ビジョン① 助産師学生の実習前／卒業前の能力を担保する

ビジョン② 助産学担当教員の教育力の向上／保証、および臨地実習指導者の指導力の向上を図る

ビジョン③ 助産師教育の遂行や、助産学担当教員・臨地実習指導者の研修開催に対し、危機管理体制を構築する

ビジョン④ すべての教育課程において、看護基礎教育に積み上げた修業年限2年以上の助産師教育を推進する

本学では、全国助産師教育協議会が策定した上記の「将来ビジョン」を満たすカリキュラムを開設以来編成しており、充実した実習で「理論」と「実践」をつなぐ教育を行っています。

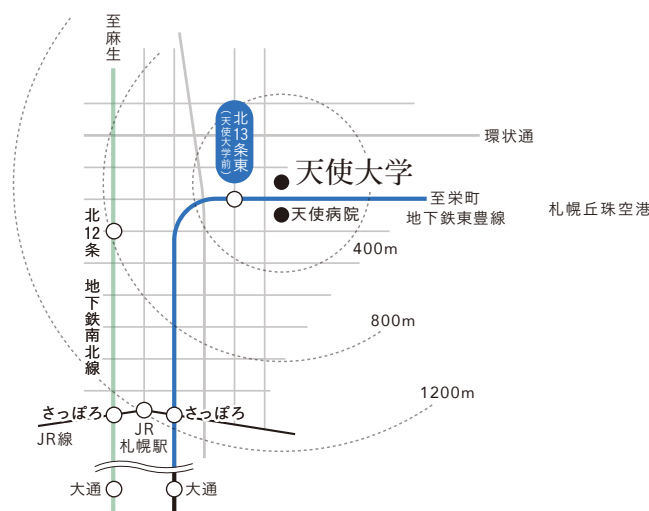
また、助産専門職大学院として、助産領域の分野別認証評価「適合」を、2009年・2014年・2019年・2024年に日本助産評価機構から受けています。

専門職大学院とは

2003年度に創設された大学院制度です。「研究者の養成」に重点がおかれる従来の大学院とは異なり、専門職大学院では「高度で専門的な職業能力を持った実務家の養成」に特化した教育を行います。

天使大学では、わが国の母子保健水準に対応する高いレベルの助産実践に備え、助産教育は大学院で行うこととし、2004年に日本初の助産専門職大学院である助産研究科を開設しました。

専門職大学院の課程を修了すると授与される学位は専門職学位とされ、本研究科を修了すると「助産修士（専門職）」が授与されます。



交通アクセス [札幌駅から]

- 地下鉄東豊線「北13条東(天使大学前)」駅1番出口より東へ徒歩3分
- 地下鉄南北線「北12条」駅2番出口より東へ徒歩15分
- 北口からタクシーで5分

[苗穂駅から]

- タクシーで8分、徒歩30分

[新千歳空港から]

- JRで札幌駅まで37分

[札幌丘珠空港から]

- バスで札幌駅まで25分



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科

大学院／助産研究科 助産専攻(専門職学位課程)

看護栄養学研究科 看護学専攻
栄養管理学専攻

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30

TEL.011-741-1051(代)

FAX.011-741-1077(代)



<https://www.tenshi.ac.jp>



日本助産評価機構



天使大学大学院助産研究科助産専攻
専門職大学院適格認定
2024.4.1～2029.3.31

天使大学大学院 助産研究科

Tenshi College
Graduate School
of Midwifery

2026



助産研究科

助産専攻(専門職学位課程)

助産師を育成する

助産基礎分野

助産教育者を育成する

助産教育分野

(募集一時停止)

天使大学大学院助産研究科は、カトリックの教育機関として「愛をとおして真理へ」を建学の理念とし、キリスト教的人間観、価値観および世界観に基づいて、専門職助産師を育成しています。

教育課程の特色

■少人数制、院生と教員による双方向教育

■実践例に基づく教育

チューター制度^{※1}とプリセプターシップ^{※2}による教育

専門職者の成長を支援するため、チューター制度とプリセプターシップを導入。チューター制度では専任教員が学習進捗の確認や助言を行い、必要に応じて柔軟に対応。プリセプターシップでは、実務経験豊富な指導者が助産実践を指導し、助産師としての役割形成を支援する。

※1チューター制度：チューターは、学生の学修支援や日常的な相談対応を行う教員であり、入学から修了まで継続して学生を担当する。(担当：専任教員)

※2プリセプターシップ：プリセプターは、実習期間中に、実践の場で指導者として、また助産師の役割モデルとなり、実習中の院生が助産師として成長できるよう、主として臨床に関する相談を受け持つ。(担当：臨床指導者・実習指導教員・臨床専任教員・専任教員)

教育目標

- 女性に優しい自然出産を自律して医療機関や地域で実践するために、正常経過の診断およびケア、正常からの逸脱の判断およびケアができる能力の育成
- 科学的根拠の明らかにされている手段を、ケアの質の向上に応用する力の育成
- 助産管理並びに助産師教育の仕組みの理解、助産チーム及び多職種との連携・調整能力の育成
- 子育て支援について助産師の役割を明確化し、具体的な援助が行える。また、子育てに関わる他領域の専門家の役割を理解し、ネットワークづくりができる基礎的能力の育成
- 性と生殖に関する倫理をふまえ、思春期を中心とした性教育プログラムを開発し、性の健康相談ができる基礎的能力の育成
- ライフステージ各期の女性のリプロダクティブ・ヘルスの増進を図るために、相談、教育、援助活動ができる基礎的能力の育成
- 地域母子保健活動を多職種と連携・協働しながら主体的に実践できる基本的能力、並びに政策化のプロセスを理解できる基礎的能力の育成
- 国内外の母子保健活動を理解し、国際的な視野をもって発展途上国での助産活動に貢献する基礎的能力の育成
- 助産教育分野 優れた助産師を育成するために、教育機関ならびに臨床現場において、助産師を目指す学習者に対して、以下の項目について基本的理解を発展させ、教育・指導できる能力の育成

- 助産・看護における教育課程の編成・実施に関する計画の立案
- 教授・学習の理論を踏まえた教授学修法の展開
- 評価理論を踏まえた学習目標の達成の評価
- 教育機関の運営・評価についての基本的理解
- 理論に基づく学習を実践に向けて統合できる教育・指導
- 変動する社会のニーズに合わせた教育変革の推進

質・量ともに充実した実習。

体系的に深く学べる講義。

日本で唯一の実践に強い助産師のための

専門職大学院です。

高度な助産実践力で専門職になるため

大学院で学ぶ意味は・・・

共に考え学びあう共育と成長をめざして

助産実践力に重点を置き、実学的に学びましょう。

全国で唯一の助産学に特化した本学の専門職大学院は、高度な助産実践力を修得して、女性や母児それを取り巻く家族を含めて健康支援ができる助産師を養成します。看護職の中でもHumanSexualityについて、助産師は専門的に深く多く学びます。また多様な価値観とジェンダー世界の中で、リプロダクティブ支援やウィメンズヘルスについて、生涯にわたり支援できる実践力を修得できることをめざします。



助産研究科長
島田 啓子

皆さん自身が何をめざしてどう生きるか、その道を探究できる哲学をもち、確たる目標と信念からスタートしましょう。看護学を基盤に助産学の視点から諸理論を活用し、世代を超えて継続支援する助産師のケアがなぜ必要か、どんな効果があるのかを実証的に語ることで助産師になって頂きたいと思います。

教員の紹介 教員名 主な担当科目

専任教員

研究科長
島田 啓子 特任教授
助産学概論、助産薬理学Ⅰ
助産管理論Ⅱ
マタニティサイクル助産ケアⅠ

中田 かおり 教授
助産哲学・倫理Ⅰ・Ⅱ
健康教育論Ⅰ・Ⅱ
助産師教育論

藤井 宏子 教授
母子保健行政・財政論
マタニティサイクル助産ケアⅡ
特別統合課題研究

臨床専任教員

高室 典子 教授
独立助産実践概論、独立助産演習
マタニティサイクル独立助産実習

宮下 美代子 教授
独立助産実践概論、
マタニティサイクル独立助産実習

山本 詩子 教授
助産薬理学Ⅰ、助産管理論Ⅱ
マタニティサイクル独立助産実習

片倉 裕子 准教授
マタニティサイクル助産ケアⅢ、ハイリスク助産演習
子育て支援論Ⅰ

森川 由紀 准教授
出産の文化、助産薬理学Ⅱ、助産女性学

長田 雅子 講師
女性のフィジカルイグザミネーション、母子保健活動論
性教育Ⅰ

椿 麻衣子 講師
出産の文化、国際助産学Ⅰ・Ⅱ、国際助産学実習

杉田 樹美 助教
妊産褥婦乳幼児の栄養、マタニティサイクル助産ケアⅢ
子育て支援論Ⅰ

兼任教員

川口 雄一 教授
特別統合課題研究

菅原 邦子 特任教授
助産哲学・倫理Ⅰ

日沼 千尋 特任教授
子育て支援論Ⅰ

小原 琢 准教授
助産哲学・倫理Ⅰ

吉田 真弓 准教授
妊産褥婦乳幼児の栄養

〈修業年限〉2年

〈学位〉助産修士(専門職)

〈入学定員〉30名

〈取得資格〉助産師国家試験受験資格

〈修了に要する単位〉57単位

助産基礎分野

生まれるいのちを支える仕事。女性の生涯に寄り添う仕事。

助産師の資格を取得すること、および助産の専門職業人に必要な、高度な助産実践の能力を修得するコースです。
看護師の資格を持つ方(または取得見込みの方)が対象です。

5つの特長

1 助産所を含む、計20単位の実習

2年間で「20単位」の学外実習が用意されています。1年次の病院実習では専任教員に加え、実習指導教員を実習の場に配置。実習施設ごとに複数の教員が(必要時には)24時間体制でサポートし、実習時の宿泊費の補助なども行っています。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則(以下、指定規則)で「11単位」の「助産学実習」を、助産研究科では「20単位」で履修します。出産期(分娩介助)だけではなく、妊婦に対する妊婦健康診査、保健相談の妊娠期ケア、産褥新生児ケアについても、質・量ともに充実した実習を行うことができます。

実習の取り扱い事例数

内容	2024年度修了生平均
保健指導	8例
妊婦健診	35例
出産期ケア	11.5例
産褥・新生児期の母子ケア	21例

2 助産師教育の世界基準(18か月以上)を満たした、実践能力の育成を重視した2年の教育課程

国際助産師連盟(ICM)は、2011年の南アフリカ大会において、「助産師教育の世界基準」として看護教育修了後の助産師基礎教育の期間を「18か月以上」とし、「実践能力」を重視することを採択しました。助産研究科の修業年限は「2年間(24か月)」。また、専門職大学院として「実践能力を重視」したカリキュラムを組み、この世界基準を十分満たしていると言えます。

3 2年課程にしかできない、助産を深く丁寧に学ぶということ

指定規則では「31単位」を修得すれば助産師国家試験の受験資格が得られますが、助産研究科はその「約2倍」の「57単位」を修了要件としています。単位数が多い理由は、従来「助産学概論」に一括されている「倫理・国際・教育」といったテーマを「助産哲学・倫理」「国際助産学」「助産師教育論」としてそれぞれ深く学ぶためです。1年間の助産師教育課程では少ない時間で行っている内容を、助産研究科では丁寧に深く学修します。

4 先輩、院生にいつでも相談できる教育環境

助産研究科は、日本で唯一の「助産師養成のための専門職大学院」であると同時に、日本で唯一の「助産教育者のための養成機関」でもあります。「助産基礎分野」には、全国各地から助産師のエキスパートを目指す学生が集まり、「助産教育分野」には病院などの第一線で活躍してきた助産師が入学します。「助産基礎分野」の院生にとってそんな経験豊富な助産教育分野の院生は、「助産の現場」のことをいつでも聞くことができる存在であり、他にはない魅力です。また、2年課程である本研究科は、1年次の時は「先輩」がいて、実習や学習方法について気軽に相談できるのも心強いところです。

5 関心の強い分野に、一步踏み出す

女性の生涯を通じた性と生殖の健康支援の担い手としての助産師の役割を学ぶため、2年次に「発展・展開科目」があり、学生は「子育て支援」「性教育」「ウィメンズヘルス」「国際助産」の4つのテーマから選択履修します。

発展・展開科目

女性を知り、母を知り、いのちを知る。助産師という仕事の奥深さに触れる学びの場です。2年次に4つのテーマから1つを選択します。

子育て支援 ～みんな集まれ！エンジェルランド～

子育てサロンを通して、子育て支援の実践を学びました。

大学院2年生が「みんな集まれ！エンジェルランド」と題して子育てサロンを行いました。

事前アンケートを基に、遊び、交流、リラクゼーションを目的として、親子体操、保護者同士の交流、保護者と院生の交流、アロママッサージを行いました。子ども（2歳～5歳）の遊びでは、手作りのおさかな釣りゲーム、クリスマスモチーフにした制作物が好評で子どもたちの笑顔がみられました。また、3～4か月の乳児に音楽を活用した赤ちゃん体操を行い、室内遊びを提案しました。

4組13名のご家族に参加いただき、「楽しかった」「また参加したい」との声が多く聞かれ、交流の場を展開することの必要性を実感しました。今後、助産師としての育児支援に活かしていくという、専門職者としての自覚が高まりました。



性教育 ～いのちと性の授業実践～

「～ステキなあなたになろう～」をテーマに性教育授業を行いました。

中学生・高校生への性教育の授業を、企画から実践まで行っています。授業を受ける生徒さんたちに事前アンケートを行い、その結果から授業内容を考え、グループワークや演習を取り入れた授業を実施しました。とても和やかな雰囲気の中で生徒さんたちは楽しく学び、「将来のためになったし、楽しかった」「自分自身についてよく知ることができた」など、多くの感想をいただきました。この授業を通して、包括的性教育の必要性を実感し、助産師としてのいのちと性にどのように関わっていくのか、考えを深めています。

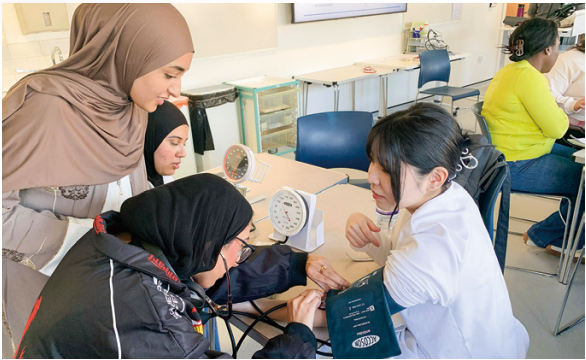


国際助産 ～海外での助産体験～

イギリス現地で出産や助産師の活動について学びました。

海外のお産、女性の健康問題や母子保健活動の状況、国際機関の関わりや日本の国際援助について学びます。

2018年度は、マダガスカルアベマリア産院、2019年度は、ベトナム・ハノイで実習をしました。その後、コロナウイルス感染症のため海外へ行けませんが、2023年度はニュージーランド、2024年度はイギリスで実習を行うことができました。出産施設・大学の見学、助産師・助産学生との交流で、日本の助産について英語でプレゼンテーションをしました。また、助産師の妊婦・母子への家庭訪問に同行し、助産師の実践を体験しました。日本との違いを知り、助産について考える機会となっています。



ウィメンズヘルス ～女性の健康とは？～

女性が生涯で直面するさまざまな性と心の問題について、幅広く学びます。不妊治療、DV、思春期や更年期特有のメンタルヘルスなど、学びながら理解を深めます。

婦人科外来の演習では、思春期から老年期までの対象者さんの診察につくことで、ライフステージの身体的・心理的特徴を学習します。

年次教育計画 (2025年度予定)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	入学式・オリエンテーション	学内学習	マタニティサイクル助産ケア基礎実習(6単位)	学内学習	補講・試験期間	夏期休業	学内学習	マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ(6単位)	冬期休業	学内学習	補講・試験期間	春期休業
2年次	学内学習	マタニティサイクル独立助産実習(6単位)	ハイリスク助産演習・健康教育論Ⅱ	学内学習	補講・試験期間	夏期休業	学内学習(発展・展開科目)	マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ(2単位)	冬期休業	学内学習(発展・展開科目)	国家試験	修了式

実習科目

専門職大学院ならではの充実した実習内容。豊富な臨床経験と、それをフィードバックする学びの場が自律した助産師を育てます。

1年次前期(6単位) マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

基礎実習で、助産の基礎をしっかりと身に付けます。

妊娠期、出産期、産褥・新生児期に分けて実習を行います。対象をよく理解した上で、それぞれの期に応じて必要な情報を提供する「保健相談」を計画、実施します。また、分娩介助や褥婦と新生児のケアを行い、助産における知識と技術の基本を学びます。

学内カンファレンスを行い、学びを深めます。

妊産褥婦のケアを立案し、実践する傍ら、学内カンファレンスを行います。それぞれの事例を持ちよって知識や体験を共有し、ディスカッションしながら学びを深めます。

2年次前期(6単位) マタニティサイクル独立助産実習

開業助産所で「自然なお産」を学びます。

助産所の助産師の持つ卓越した助産技術をはじめ、妊婦さんと深く関わりながら「自然なお産」について実践的に学びます。妊娠から出産、産褥までを連続したプロセスとしてとらえ、身体の自然な力や個性性を大切にした助産ケアを学ぶ実習です。

助産ケアでは、育児期にあるお母さんとの関わりの中で助産師のケアの大切さを知ることができます。

6週間泊まり込むことで「助産所のリアル」が見えてきます。

優れた観察力が必要となる助産所での仕事を間近で見て、助産師の独立性、自律性、専門職としての倫理的責任などについて考察します。開業助産所の管理・運営・経営、さらに地域貢献にいたるまで、総合的に学びます。

【 実習施設 (2025年度) 】

病院	助産所	その他
● 天使病院(札幌市) ● 市立札幌病院(札幌市) ● 札幌東豊病院(札幌市) ● 手稲溪仁会病院(札幌市) ● 札幌白石産科婦人科病院(札幌市) ● 産科・婦人科 札幌みらいクリニック(札幌市) ● エナレディースクリニック(札幌市) ● マミーズクリニックちとせ(千歳市) ● 帯広病院(帯広市) ● 森産科婦人科病院(旭川市)	● 山本助産院(神奈川県) ● みやした助産院(神奈川県) ● さくらバース(神奈川県) ● とわ助産院(神奈川県) ● パースあおば(神奈川県) ● 稲田助産院(神奈川県) ● 森田助産院(東京都) ● 助産院エ・ク・ボ(札幌市) ● 桃太郎助産院(静岡県) ● お茶畑助産院(静岡県)	● 千歳市保健センター(千歳市) ● 岩見沢市保健センター(岩見沢市) ● 恵庭市保健センター(恵庭市) ● 北広島市保健センター(北広島市) ● 美瑛市保健センター(美瑛市) ● 江別市保健センター(江別市)

修了生インタビュー

各地で活躍する修了生が
“天使だからこそ学べたこと”を語ってくれました。

助産院を姉妹で開業。助産院実習や独立助産演習での学びが生きています。



ママケアハウスイコロ助産院
勤務（開業助産師）
助産研究科 助産基礎分野
2013年3月修了

助産研究科に進学した理由は、大学時代の母性看護学実習がとて楽しくて、そこで働く助産師さんの姿や、先に天使大学助産研究科で学んでいた姉を見て「私もなりたい」と思ったからです。

実際に助産師になってみると、学んで良かったと思えることばかりです。特に6週間の泊まりこみの助産院実習が印象深く、自宅出産の方を受け持ち、ご家族が見守る中で分娩介助をさせていただきました。「生活の一部にお産がある」と実感できた分娩でした。先生の助産技術を身近で学んだ経験は、開業を目指す大きなきっかけになったと思います。

他の実習も期間が長く、記録も苦労しましたが、一例一例、先生と深く振り返りながら実習を重ねることで、辛い時も乗り越えることができました。先生方から学んだ母子に対する姿勢や言葉がけ、関わり方などは、今も自分の中で血となり肉となり生きていますと感じます。

助産研究科の2年間で、助産師とは妊産婦だけに関わるのではなく、幼少期から老年期までの女性のライフステージ全般をケアする存在だとわかりました。発展・展開科目の「子育て支援」では、地域での助産師の役割を学び、お母さん方に退院後の生活や悩みについてインタビューも行いました。この実習も、将来は地域の助産院で産後ケアをしたいという目標につながったと思います。

修了後は4年間の病院勤務や助産院での研修を経て、5年前に姉と助産院を開院しました。ふたりとも力を入れて勉強してきた母乳育児・乳房ケアと産後ケアが中心の助産院で、自分たちが古民家をリフォームしました。イコロ（アイヌ語で宝の意味）という名前には、赤ちゃんは宝物というだけではなく、育児期間を宝物のような期間にしてほしいという願いもこめています。市の産後ケア事業として新生児訪問や育児支援を行ったり、ショッピングセンターで育児相談を行ったりもしています。助産研究科では独立開業を目指すための講義も多かったので、在学当時に立てた事業計画を見直す時もあり、改めてがんばろうと思ったりします。

当院には、「赤ちゃんがおっぱいを吸ってくれないから授乳の練習をしたい」「体重があまり増えず、発達が遅いよだから見てほしい」といった不安や悩みを抱えたお母さんたちが来院されます。私たちのサポートによって、母乳育児が軌道に乗ったり、理想の状況に近づいたり、親としての自信を付けていく姿を見たりすると、助産師としてのやりがいを感じます。産後のお母さんを孤独にせず、みなさんが気軽に利用できる環境を整え、お話をよく聞いてベストを尽くすことが、私の今のモットーです。

圧倒的に豊富な実習と、切磋琢磨できる環境。「母と子の力を引き出す」助産師像が今も目標です。

愛知の看護大学時代に自然分娩を見学する機会があり、その時の「子が生まれる瞬間の感動」が忘れられず、助産師を目指すことにしました。天使大学の近藤先生のもとで学ぶことを教授から勧められ、多くの実習が組まれている恵まれた環境だと知り、進学を決めました。

助産研究科の2年間は、助産についてとことん考え、学べる環境でした。基礎をしっかりと身に付けることはもちろん、実習が豊富で、あれほど長い時間、直接お母さんと赤ちゃんを見て、聞いて、触れる機会がある養成機関は他にないと思います。実際に働いてみると、講義で学んだ知識や技術を、長い実習期間をとおして繰り返し実践と結び付けられたことが一番役立っていると感じました。特に助産院実習において、「女性自身が持つ本来の力を引き出す」助産ケアや「自然なお産」を学べたことは、自分自身の助産師としての軸を持つことに繋がり、「母と子の力を引き出す助産師」になりたいという目標、その視点は今でもぶれていません。また、特別講師の方々の貴重な講義では、教壇に立つだけでオーラを放ち、人として素晴らしい先生方が多くて感動しました。自分も将来、そういう先生方のような助産師になりたいと思いました。

発展・展開科目では「国際助産」を選択し、特別総合課題研究では「分娩時の痛み」について研究しました。このように興味がある分野をとことん追究できる点も専門職大学院で学ぶ大きな意義であり、その時に培った興味・関心が仕事を続けていく糧になっていると感じます。

就職先は、本来の母子の力を引き出す助産ができそうな、希望に近い病院を選択しました。新卒で入職し、産後病棟で3年間、産後の母体の回復と帝王切開術後の管理、母乳育児のケア、新生児の観察、育児スタートのサポートなどを実施しました。それから妊娠病棟で半年間、切迫早産や満期の前期破水、双胎、悪阻などの妊婦さんの管理・ケアを学びました。その後はMFICU（母体胎児集中治療室）・分娩室に所属し、精密な管理が必要な妊産婦さんたちをチームで担当しています。

すべての部署を経験させてもらった今は、改めて妊娠、分娩、産後・新生児期を線でとらえてケアすることの楽しさを感じています。自分の知識や技術、判断とそれに伴う予測力が、母子とその家族に及ぼす影響の大きさを日々実感しています。すべてにやりがいを感じますが、出産前からの赤ちゃんの成長と一緒に喜んだり、お母さんが懸命に産み、生まれたばかりの赤ちゃんを笑顔で抱く瞬間や疲れていても愛おしそうに抱く姿を見たりする時はいつも、助産師で良かったと思います。



日本赤十字医療センター
勤務（助産師）
助産研究科 助産基礎分野
2018年3月修了

【就職先（2024年度）】

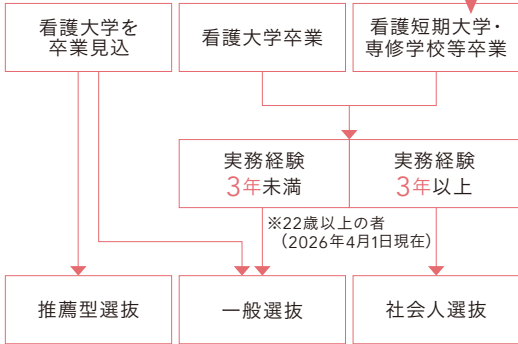
北海道		
●札幌東豊病院	●北海道大学病院	●王子総合病院
●天使病院	●市立札幌病院	●八雲町八雲総合病院
●JCHO北海道病院	●苫小牧市立病院	●釧路赤十字病院

関東	
●聖路加国際病院（東京都）	●東京科学大学病院（東京都）
●東京女子医科大学病院（東京都）	●昭和大学病院（東京都）
●防衛医科大学校病院（埼玉県）	●聖母病院（東京都）
●東京大学医学部附属病院（東京都）	●横浜市東部病院（神奈川県）

2026年度 助産基礎分野 選抜概要

〈入学定員〉30名（女性） 〈修業年限〉2年 〈学位〉助産修士（専門職） 〈取得資格〉助産師国家試験受験資格

【出願資格と受験方法】 4大卒以外の方も受験可能！



【選抜概要】

選抜種別	推薦型選抜	一般選抜	社会人選抜
募集人員	10名	20名	
選抜内容	1.小論文試験（60分） 2.個人面接試験	1.小論文試験（60分） 2.学力試験（60分） 「専門科目（母性看護学領域）」 3.個人面接試験	1.小論文試験（60分） 2.個人面接試験

【選抜日程】

選抜種別	推薦型選抜	一般選抜・社会人選抜
出願期間	2025年8月18日（月）～8月29日（金）必着	2025年9月24日（水）～10月3日（金）必着
選抜日	2025年9月13日（土）	2025年10月18日（土）
合格発表日	2025年9月24日（水）午前10時	2025年10月27日（月）午前10時

※日程等変更する場合があります。入学手続き（入学納付金）締切日までの手続き者が受入人数に達しない場合、2次募集を行うことがあります。詳細は本学WEBサイトをご確認ください。

納入金（2026年度）

種別	内訳	入学手続時	後期	年額合計
学納金	入 学 金 ※1	150,000円	—	150,000円
	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施 設 設 備 資 金	100,000円	100,000円	200,000円
	実 験 実 習 料	50,000円	50,000円	100,000円
	小 計	900,000円	750,000円	1,650,000円
委託徴収費	災 害 傷 害 保 険 料 ※3	7,000円	—	7,000円
	同 窓 会 費 ※1	—	50,000円	50,000円
	小 計	7,000円	50,000円	57,000円
合 計 ※2		907,000円	800,000円	1,707,000円

※1：初年度の納入額です。天使大学・天使女子短期大学卒業生は、入学金・同窓会費（後期納入分）を免除します。※2：学納金・委託徴収費の年額合計を一括納入することができます。※3：災害傷害保険（日本看護学校協議会共済会の共済制度「Will」）への加入を義務付けています。【注】学期を過ぎて休学する場合は学期ごとに在籍料50,000円を納入していただきます。

奨学金（2025年度）

奨学金		月額／年額	金額	備考
日本学生支援機構奨学金	第一種	月額	50,000円または88,000円	無利子貸与
	第二種	月額	50,000円／80,000円／100,000円 130,000円／150,000円	有利子貸与（利率は年3%以内）
天使大学同窓会給付奨学金		年額	100,000円	経済的に困難があり、成績優秀な者に対し給付。 在学中1回限り
天使大学貸与奨学金		月額	30,000円または50,000円	無利子貸与 経済的に修学が困難な者に対し貸与
日本助産師会奨学金		年額	600,000円	無利子貸与
北海道看護職員養成修学資金		月額	36,000円	無利子貸与 道内の病院その他の施設において助産師として 貸付年数の1.5倍（端数切り上げ）勤務した場合返還免除

※上記の他にも、地方自治体や病院、各種団体などの奨学金があります。各自で出身地の都道府県や市町村の教育委員会、病院などにお問い合わせください。
※奨学金に関する詳細は、学務課（学生担当）までお問い合わせください。Tel：011-792-9204。